

平成 3 月 1 2 日

父 母 に つ い て

西 東 京 本 部 浜 田 山 支 部

内 田 大 貴

僕は空手を始めて五年目になります。僕の
今日までの道のりには、いくつかの出来事が
ありました。
最初の出来事は、僕が小学一年生のころ、
空手を始めるきっかけとなった友達がドイツ
に引っ越してしまったことです。今まで目標
としていた人がいなくなっただので、その後あ
まりやる気がなくなってしまうしました。
しかし、やる気のなくなっただ僕に気合を入
れ直してくれたのが父母です。「せっかく始め
た空手なのだから、黒帯までやり遂げよう」
という励ましのおかげで、引き続き気合を入
れて日々の稽古に取り組めました。
そして二年後。三年生になり、僕は学習塾
に通い始めたため、あまり空手を楽しめなく
なりました。空手はやる気がなければ続ける

ことが難しいスポーツなので、続ける自信がなくなってきました。

そんなある日、父母が「合宿に行く」と言い出しました。仕方なくついて行ったのですが、そこで初めて組手をしたり、試割りをしたりして、空手の楽しさに目覚めました。

このような体験をしていくことで、僕は思いました。これらの出来事の裏には、必ず父母がいました。いつもは厳しくても、本当は優しく見守ってくれていることに気が付きました。初段を取るには、こうしたさまざまなたくまな練習を乗り越える必要があったのでしよう。

父さん、母さん、そして今まで支えてくれた方々。ありがとうございます。これからも、がんばりたいと思います。押忍！